

令和3年度 県立水戸南高等学校（通信制）自己評価表

目指す 学校像	「生徒一人一人のニーズ・スタイルを尊重し、学校本来の大切さを日々感じる学校」			
	単位制で作る自分の時間割、生活スタイルで選べる3つの課程、手厚い指導体制を生かしたセルフプロデュースの学習を実現する。 JR水戸駅から徒歩圏内の利便性と、緑に囲まれた閑静な環境を生かして、持続可能な心静かな学びを実現する。			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
・教職員の丁寧な添削指導や生徒一人一人に寄り添った指導を行った結果、2年連続で単位修得率が向上した。 ・学校行事や生徒会主催行事が中止や開催形態の変更を余儀なくされた中、全職員の協力により運営が行われ、教育的効果を上げることができた。引き続き参加率の向上を目指していく。 ・県内唯一の通信制設置の県立高校として地域への広報活動を広げたが、今後は学校訪問等の機会を増やし、さらなる周知を行う。	学習指導のさらなる充実		・自己指導能力を育み、自学自習の習慣を身に付けさせられるような、丁寧で的確な添削指導を行う。 ・スクーリングの際におけるICT機器の活用を推進する。 ・生徒の単位認定に至るまでの学習活動におけるICT化の可能性について検討を進める。	B
	生徒の社会性の向上		・多様な学校行事を企画し、多くの生徒の参加を促す。このことを通して、個々の生徒のもつ特性を活性化させるとともに、他の生徒との交流を深めさせることにより、社会性を育成する。 ・外部機関が主催する行事や大会、ボランティア活動への参加を促し、コミュニケーション能力の向上を図る。	C
	保護者、家庭との連携強化		・月1回発行する「南通信」を通して、通信制課程の教育活動や学習の取組方法を周知する。 ・「学校ホームページ」「メール配信」などで、随時情報発信を行い、保護者、家庭との連携を強化する。	A
	教職員の資質向上		・全国及び関東地区の通信制教育研究会の研修会への参加を促し、通信制教育の意義や各校の指導方法を学ぶ。 ・先進校の取組を紹介する校内研修を行い、ICT機器の活用などより充実した指導方法を学ぶ。	B
	学校運営の効率化 (働き方改革)		・教育情報ネットワークの「電子会議室」等を利用し、会議等を効率的に行うなど、働き方改革を進める。 ・同一業務同一フォーマットの考えにより、利便性の高い統一フォーマットを作成し、業務の見直しや改善を図る。 ・PDCAサイクルを確立し、教員業務の見直しと業務改善の推進を図る。	B
	広報活動のさらなる充実 (地域との連携強化)		・ホームページやチラシ等による情報発信機能を充実させ、県立高校通信制としての教育活動を広く地域に周知する。 ・中学校、高等学校を訪問して情報提供を積極的に行い、「学びのセーフティーネット」としての役割を周知する。 ・学業継続を希望する生徒を広く受け入れるため、就業者など地域の方々にも広く周知する。	A

三つの方針		具体的目標	評価		次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」 （スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー）	（長期的目標） 【本校の通信制課程は、1951年の創立以来、茨城県内唯一の県立通信制課程として、生徒一人一人のニーズや生活スタイルを尊重し、生徒と教員が、「これからの生活に必要なこと」を共に考え、それを実現することが使命であると考えています。】 ○「個別最適化された学び」 様々な背景を持つ一人一人の生徒が、多様な能力・適性、興味・関心に応じた学びを実現できるようにします。 ○一人一人の可能性の開花と、セルフケア力の向上 教員は、“できないのではなく、今はまだ、できていないだけ”という想いから、生徒が本来持っている力を呼び覚まし、自分の可能性や方向性を思い描けるように導きます。 ○「誰かに必要なことはみんなの快適」 個々の生活体験や学びから得られた知を、ユニバーサルデザインの視点に昇華させ、そこから生まれる安心感を、共に学ぶすべての人が共有していきます。 ○世の中の「とくべつ」とされていることは「本校では当たり前」 本校を取り巻くすべての人が、学校本来の大切さを日々実感できる学校でありたいと考えています。良いものを良いと感じられ、当たり前のことを当たり前と思うことのできる人、今は未完成でも、予測不能と言われる社会の中で、学ぶ楽しさを見つけようとする人、「自分の大切さ」と「相手の大切さ」をともに考え、互いを大切にできる人を育てます。	B		・本校での学びの成果が「これからの時代の当たり前」として生徒たちの中に根付き、誇りをもって生活を送れるような指導を心がけていきたい。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	（中期的目標） 【本校では、全体的な効率よりも、一人一人の興味・関心・進路希望による科目選択が優先される“水戸南カリキュラム”を編成します。】 ○「なりたい自分になるための学びの場づくり」 単位制本来の特色を最大限に活かすことを第一に考え、学びの積み重ねによって3年間での卒業が十分できるよう、多様な教科科目、個別対応も含んだ発展的学習を可能にします。 ○「間違える、わからない、質問する」が「当たり前」 「まだ、できていない」を教員が意識し、それぞれの学びの世界に導き、刺激し、能力を引き出すことで、生徒がクリエイティブに「何か」を見つけて、より深く学ぼうとする意識を高めていきます。 ○誰もが必要とする基礎・基本の学びの導入 義務教育の9年間では、誰もが苦手と感じる分野を持っています。本校では、高校での学びへの移行をスムーズにできるようにしています。また、スクーリング・レポート・考査の3つの柱に加え、ICTを活用することによってスクーリングの効果を高め、レポートの助けになるような教材を発信するようにします。	B		・学び直しを含めた学習指導内容の改善を意識し、生徒たちの生活スタイルに合わせた教育課程が組めるよう追究を進めたい。

	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 【本校は、「これから」の気持ちを応援する学校として、「今、学びたい」という気持ちを尊重し、学び続けていくことの楽しさを習得する意欲をもった生徒の受入れを行います。】 ○居住地や生活スタイルに合わせた通学方法で学びをサポートします。 通信制において、月 2 回のスクーリングは、日曜コース、火曜コースを設定しています。また、下妻コース（日曜日実施）を選択することもできます。 ○「学びに対する好奇心」をもつ生徒を受け入れます。 レポートの作成やスクーリングを通して、“自分にはできない”とあきらまず、これまで困難を乗り越えてきたことも自信に変え、何度でも立ち上がれる人になることを目指します。学びの中で、世界の成り立ちを知ることの喜びに気付くとともに、自分にプラスをもたらす人との出会いを通して、自分の強みを知り、高校時代に第一歩を踏み出してもらいたいと考えます。 ○「学びをセルフプロデュースできる生徒」を育てます。 進学や就職で、さまざまな進路希望を持つ生徒が共存するのが水戸南高の特色です。外見を校則でしぼられない自由さの中で、自立・自律の能力を磨くことを目指し、自分の目標と今の自分がどう違っているかを見て、自分で修正できる力を身に付けていきましょう。	B		・より積極的かつ効率的な広報活動を行い、これらのポリシーをより広い年齢層に知ってもらい、入学希望者の増加につなげたい。
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
国語	・日本語運用の知識・能力を高めることでより豊かな社会性を身に付けさせる。 ・古典の鑑賞を通して人生観や世界観を広げさせる。 ・小説や評論の読解を通して情操を豊かにするとともに思考力・判断力を養う。	・正確な日本語を用い、文意が通ずる文章を作成できるように、スクーリングを通して指導する。	A	A	・国語表現の「随想を書く」、現代文の「読書感想文を書く」回でつまずく生徒が目につく。書くことを苦手とする生徒に対しての指導をさらに工夫してゆく。 ・読解力や語彙力を養うために、引き続きレポートの改善を行う。 ・スクーリングの質を高められるよう、さらに研鑽を積むよう心掛ける。
		・主体的な学びの一助となるよう、ICT機器活用の検討を進めるとともに、教材やレポートのさらなる改善を図る。	B		
		・作文や読書感想文などの創作活動を通して自己の内面を探り、自分自身と向かい合うことで、自己実現への契機となるよう、きめ細かな添削指導をする。	A		
		・レポートにおいて定期的且つ継続的な漢字指導を行う。	A		
		・常識的な国語の知識をレポートとスクーリングを通して身に付けさせる。	B		
地歴	・激しく変動する世界を正しく公平に理解させることに努める。	・スクーリング終了時に、指導内容を点検・改善し、次のスクーリングに生かす。	A	B	・基本的な知識が不足している中で、いかに歴史と地理に興味を持たせるか。また I C T 機器の有効活用をどうするか。が課題である。
		・生徒一人一人の能力・実態に合わせた指導を行う。ICT機器等の効果的な利用を図る。	B		
		・激しく変動する世界にあって、さまざまな情報源から、生きた世界の姿を正しく理解させるとともに、公平な立場で世界の諸問題を見つめられる教養を育てる。	B		

公民	・現代の社会をよく見つけ、正しく公平に理解させることに努める。	・スクーリング終了時に、指導内容を点検・改善し、次のスクーリングに生かす。	B	B	・日常の身近な問題を取り上げ、スクーリングにどう生かすか。また I C T 機器の有効活用をどうするか。が課題である。
		・生徒一人一人の能力・実態に合わせた指導を行う。ICT機器等の効果的な利用を図る。	B		
		・激しく変動する世界に対応するため、あらゆるメディアを利用して、現代社会の姿を正しく理解させるとともに、グローバルな視野に立って、公平な立場で世界の諸問題を見つめられる心と教養を育てる。	B		
数学	・基礎学力の定着を図る。 ・分かる喜びをより多く実感できるようにする。	・基礎事項の理解に重点を置いた分かり易いレポートとなるよう、更なる改善を図る。	A	A	新課程実施を踏まえ、レポート・面接内容の準備を進めていく。また、観点別評価について、教科内でより検討を図っていく。そして、 google Classroom を活用し、より効果的な ICT の活用法についても考えていく。
		・基礎事項の理解に重点を置いた丁寧なレポート添削を行う。	A		
		・自学自習でレポート作成ができるようにするために、面接(スクーリング)および補助資料をより充実させるとともに、ICTの効果的な活用を図る。	A		
		・必修修科目(数学Ⅰ)の単位修得者数を向上させるべく、生徒各人に必要な声かけやアドバイスを実施する。	A		
		・新指導要領への移行を鑑み、生徒の実態に合わせた教育課程のレポートを作成する。	A		
		・新指導要領への移行を鑑み、観点別評価を検討する。	B		
理科	・実験や実習・観察などを通して、理科のおもしろさを実感させ、興味・関心をもって学べるように努める。 ・自宅学習を充実させ、基礎的知識を定着させる。	・実験や観察の機会を増やし、実物や現象に直接ふれることができるように努める。	A	A	・密を避け、個々に取り組める実習・観察の充実 ・補助資料や視聴覚教材の共有の為、クラスルーム等の活用 ・生徒の理解度やレポートの解答状況を踏まえ、レポート内容を精査
		・理科を楽しみながら学べるように、実験や実習について、さらに工夫・改善に努める。	A		
		・視聴覚教材やプリントなどの利用やICTの活用により、生徒が理解しやすいように、興味を持ってスクーリングに臨めるように努める。	A		
		・生徒一人一人に応じたレポート添削指導やサポートの方法について改善に努める。	A		
		・自学自習のためのレポートの工夫・改善に努める。	A		
保健体育	・運動の実践を通して、計画的に運動を楽しむ習慣を育て、生涯体育の基礎を養う。 ・健康や安全の理解を深めるとともに、健康を高める能力や態度を育てる。	・各種の運動の合理的な実践を通して、一人ひとりの身体能力や個性を尊重した指導を行い、思考力・判断力・表現力を養い、生涯を通じて運動に親しめる能力や態度を養う。スクーリングでの ICT を活用し生徒の興味関心をうながす。	A	A	スクーリング出席があまり多くない生徒への指導、アプローチの仕方
		・レポート添削を中心とした学習において、運動や健康・安全についての知識及び理解を深めさせ、学びに向かう力、人間性等が高まるよう、主体的・対話的で深い学びができる能力や態度を養う。インターネットなどを利用し、レポート学習の深化を図れるように指導する。	A	A	教科書等の本文以外の所へも注目したレポート学習の推奨。
芸術	・芸術各科の基礎知識、用具等の扱いを習得させる。 ・創作の喜びや鑑賞の楽しみを実感し、生涯にわたって芸術に親しむ心情を養う。	・スクーリングは、各種道具や表現方法などを説明し、実技指導を工夫する。また、ICTを活用した鑑賞等についても検討を進める。	A	A	個に応じた面接・添削指導の工夫を進めることができたが、更に ICT 環境が整うときに備えて活用の準備を進めたい。
		・レポートは、生徒が主体的に取り組める内容を厳選し、個に応じた添削指導に努める。	A		
		・テストは、スクーリングやレポート内容を反映させるものとし、個に応じて支援する。	A		

外国語 (英語)	・音声指導を行い、使える英語を身に付けさせる。 ・レポート作成に参考になる指導をする。	・単語や英文を声に出して読ませる。実生活にどれだけ英語が浸透しているかを認識させ、簡単な英語を使えるようにする。	B	B	丁寧な学習指導は出来たが、引き続きの ICT の活用の検討が課題である。
		・スクーリングにおいて、レポートの内容について指導するとともに、ICTの活用についても検討を進める。	B		
家庭	・基礎的、基本的な知識・技術を習得させる。 ・家庭生活の重要性を実感させる。	・きめ細やかなレポート添削を行う。	B	A	・実験、実習を通して、生活者として自立の大切さを認識させる。 ・ICT 機器を使用し、より分かりやすい授業を目指す。
		・生徒ひとりひとりの技術に応じた実技指導を実施する。	A		
		・ICT 機器を積極的に使い、視覚的に授業時間や内容を提示することで、授業への理解度を高める。	A		
		・ホームプロジェクトを通して、生活者としての自立を目指す学習を充実する。	B		
		・実験・実習の体験を通して日常生活をよりよくしていこうとする意欲を高める。	A		
商業	・ビジネス教育における基礎的・基本的な知識・技能の習得の向上に努める。	・自学自習に対応するようレポート内容を精選し、解答方法の工夫・改善に努める。	A	A	スクーリングへの出席やレポート提出が少ない生徒への対応について考える。
		・スクーリング内容および補助プリントを充実し、ICT機器を活用する。	A		
		・個に応じた添削指導に努める。	A		
		・資格取得やビジネススキルアップを支援する。	B		
情報	・ネットワーク、端末、コンテンツ等を利用できるようにする。	・基礎的・基本的な用語を学習する。	A	A	新課程に向けたレポートの作成(含観点別)に取り組む。
		・簡単なパソコン操作ができるようにする。	A		
		・スマートホンの利便性と危険性の情報モラルに関して指導する。	A		
教務	・生徒一人一人がそれぞれの目標を達成できるように学校の運営に取り組む。 ・生徒が自分の進路に応じた学習計画を立て、前向きな姿勢で学習に取り組めるようにする。 ・各部・委員会との連携を図り、円滑な学校運営に務める。	・インターネットなどを利用した情報提供の在り方について研修を図る。	A	A	・ICT のさらなる活用を検討する。 ・中学生だけではなく、社会人にも通信制の広報活動を行っていく。 ・新旧教育課程の円滑な移行。
		・時間割を工夫し、生徒が効率よくスクーリングに出席できるようにする。	A		
		・試験の実施方法やその時期を検討し、無理なく受験できる環境を整え、合格率の向上を目指す。	B		
		・新学習指導要領についての研修を深め、学校の特色にあった教育課程の編成に取り組む。	A		
		・生徒の希望が十分に反映された科目履修が実現できるような履修指導の時期や方法を考案する。	A		
		・支援システムの機能の見直しと強化を進め、事務処理の効率化を図る。	B		
		・学習指導部と連携して、レポート提出率及び単位修得率の向上を図る。	A		
		・ICT教育の活用を研究する。	B		

学習指導	・基礎学力を定着させ、単位修得率を向上させる。 ・自学自習の支援を図る。 ・生徒の進路目標の達成を図る。	・教具・教材などの学習環境の整備と充実に努める。レポート改善を促進する。	A	B	・新教育課程 2 年次のレポート作成の迅速化 ・高校講座の視聴の促進を図る。 ・進路関係書類の統一の徹底。図書館利用の促進
		・生徒に「南通信」の有効活用を促すとともに、内容の充実を図る。	A		
		・NHK 高校講座の視聴を奨励し、自学自習の習慣化を定着させ単位修得率向上を図る。	B		
		・図書内容の充実と利用の促進を図る。	B		
		・担任を中心に個々の生徒の進路相談を充実させるために、進路関係の情報収集、提供に努める。	B		
生徒指導	・校内全面禁煙の徹底を図る。 ・公共マナーの向上と社会的規範の遵守を図る。 ・思いやりのある心の育成を図る。 ・本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止に努め、実態把握およびいじめに対する措置を適切に行う。	・全学年の先生の協力を得て、スクーリングの巡回指導、校内放送等により、喫煙を減らし、生徒間のトラブルを未然に防ぐ。	A	A	・今年度も職員の協力のもと見回りをしっかり行ったため校内での事件事故の件数を少なくすることができた。 ・18 歳成人に伴う校則の見直しについては、そもそも通信制は成人を念頭に置いて開校されたため、校則を精査したが見直す所は見当たらなかった。 ・行事は中止が多かったが、来年度は通常どおり実施したい。
		・HR 等を利用し、薬物の危険性、有害情報の提供、交通マナーなどを随時指導していく。	A		
		・他人が受ける心の痛みが理解するとともに、自主性のある行動がとれるよう指導していく。	A		
		・多くの行事を通じて、豊かな人間性の育成を図る。	B		
		・生徒の自己有用感等を高め、生徒から相談しやすい関係を構築し未然防止に努める。	A		
		・保護者から相談しやすい関係を構築するとともに、いじめの早期発見に努める。	A		
		・いじめ発生の際には、被害者の心のケアや加害者への指導を適切に行い早期解消に努める。	A		
		・保護者と密接に連絡を取るとともに、必要に応じて関係機関と連携して対応する。	A		
		・情報モラルやいじめについての事例研究や校内研修などの教職員研修を適切に行う。	A		
保健	・心身の健康と自己管理能力の育成を図る。 ・環境美化の定着を図る。 ・健康・安全に対する知識の向上を図る。	・スクーリング時の HR や「水戸南通信」を通して、感染症対策を含めた健康維持・安全衛生面についての生徒の意識高揚に努める。	B	B	・今年度は予定通り健康診断が実施でき、さらに6月1日のクラスマッチが昼間制の尿検体回収日と重なったため健診の機会を増やすことができたが、登校生徒の受診率は昨年度と同程度であった。欠席者の受診率の向上が課題である。 ・健診時に、女子生徒対応のため、保健部以外の女性教諭の支援を受けた。健診日の尿検査の実施の仕方も含め、検討したい。
		・健康診断をより多くの生徒に受診させることにより、健康管理の必要性について理解させる。			
		・深刻な持病や精神面で支障のある生徒については、関係職員(学校医やスクールカウンセラー)の共通理解のもとに指導に当たる。	B		
		・スクーリング時に、3 才以上の幼児を持つ生徒の援助として託児を実施する。	A		
		・スクーリング時の清掃などを通して、公共の場における美化意識の向上を図る。	B		
		・HR や「水戸南通信」を通し、校内における緊急時の対応が出来るよう啓発する。	A		
		・災害時に配付する備蓄水の備蓄状況確認を適宜行う。			

渉外	・生徒募集のための広報活動を充実させる。 ・同窓会活動の維持に努める。	・学校案内パンフレット、ポスター等の内容をより充実させるために工夫・努力する。	A	A	・コロナ収束後の広報活動を市町村訪問に戻すかどうか。 ・リーフレットを増刷するか。
		・市町村訪問を効果的に実施することによって来年度の生徒募集の広報活動を図る。	A		
		・通信制同窓会の活動の維持に努める。	B		
		・定通教育振興会の運営の活発化に努める。	B		
第1年次	・基本的な生活習慣と学習態度の確立 ・学習への自発的な喚起を促す指導 ・多様な生徒への指導の充実	・公共の場において高校生としてふさわしい行動がとれるよう指導する。	A	A	年間を通じて、巣ごもり時間が多い中での自発的学習への触発をより図っていく。また、特に年度途中で来なくなってしまった生徒の原因を分析し、次に生かせるようにしていく。
		・各生徒の個性に対応した個別指導と学習への興味を喚起させる指導により、スクーリングの出席率並びにレポートの提出率の向上を目指す。	A		
		・新卒生徒の中でも特に問題行動のある生徒、不登校の傾向にある生徒、全日制高校を中途退学した生徒などの理解に努め、適切な対応を心がける。	B		
第2年次	・個別指導の拡充による単位修得率の向上 ・生徒一人ひとりの生活環境に応じた生徒理解 ・スクーリング時における学習環境の適正化	・個々の昨年度の学習状況等を踏まえ、適切な助言により、レポート提出率、スクーリング出席率を向上させ、延いては単位修得率の向上を目指す。	A	A	・不適応や問題を抱える生徒への適切な指導と必要に応じSSWの支援要請 ・進学希望者への進路指導の充実
		・問題を抱える生徒や学習活動が不活発な生徒について、情報を収集し、生徒理解に努めるとともに、関係する分掌・委員会と連携を図り、適切な対応を心掛ける。	B		
		・校内巡視や生徒への声掛け等により、問題行動発生の防止に努める。	A		
第3年次	・生徒理解のための連携強化 ・学習の定着化による単位修得率の向上 ・三卒希望者の卒業達成支援	・問題を抱えている生徒について、学年全体で情報を共有し、管理職の指示のもと、校務分掌各部と連携・協力しながら学年全体で対処する。	B	B	・個々の環境に応じた単位修得指導を行い、適切な進路指導を行う。 ・問題を抱える生徒に対して寄り添った助言を行う。
		・個々の生徒に応じた指導・助言により、スクーリングの出席率・レポートの提出率を向上させ、単位修得に繋がるように努める。	B		
		・三卒希望者の卒業に向けて、積極的な支援を行い、卒業達成率80%を目指す。	A		
第4年次	・昨年度を踏まえた指導によるさらなる単位修得率の向上。 ・生徒個々をよく観察し、自発的行動を引き出す。 ・生徒個々に合わせた進路指導の充実	・履修計画を工夫し、単位を修得しやすくする。	B	A	・長年学校に在籍している生徒への対応について更に検討していく。 ・進路の定まらない生徒への適切な進路指導に努めていく。
		・昨年度軌道に乗り出した生徒には、その意欲を失わないよう配慮を加える。 ・単位未修得者に対しても諦めることなく接し、意欲が出るのを待つ。			
		・生徒個々をよく観察しコミュニケーションを大切にし、生徒との距離を大切に保ちながら働きかけ、自発的行動を待ち、学習・卒業等への意欲を引き出す。	A		
		・生徒の進路希望に合わせて適切な助言を行い、生徒の自己実現を図る。	B		
		・進路指導担当と緊密に連携して資料や情報の提供に努める。	A		

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：出来ていない